

第2章

中学校における キャリア教育の推進のために

第1節 校内組織の整備

1 キャリア教育の推進と校長の役割

第1章で詳しく整理したように、中央教育審議会は平成23年1月31日、答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」をとりまとめ、今後の学校教育におけるキャリア教育の重要性とその方向性を示した。本答申は、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義し、特定の活動や指導方法に限定されず、様々な教育活動を通して実践されるものであると明示している。また、キャリア教育を通じて育成すべき「基礎的・汎用的能力」を具体的に示すと共に、これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、生徒の発達の段階によって異なるとした。

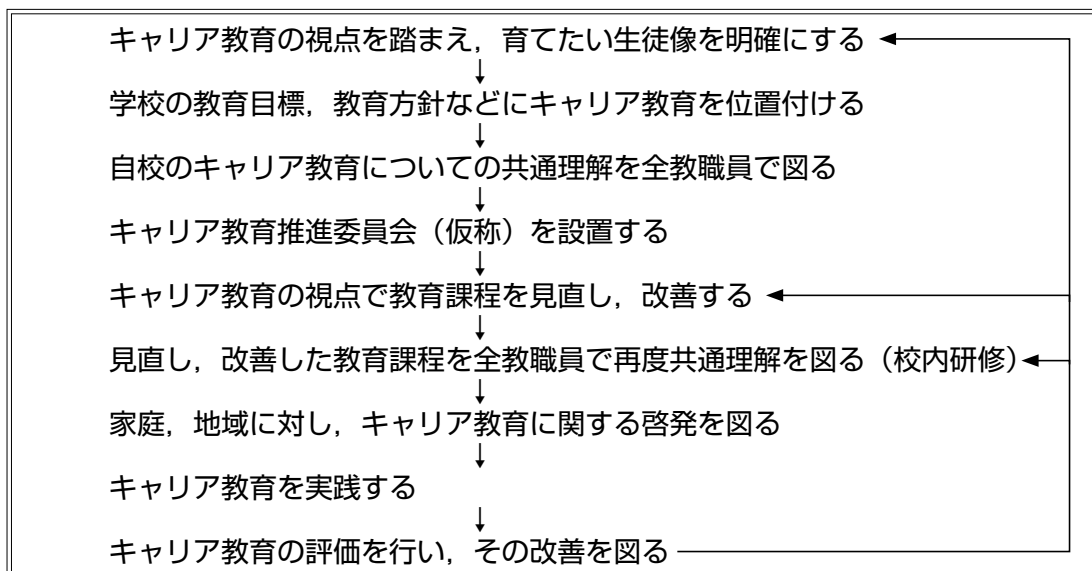
このことは、キャリア教育において、各学校が目標及び育成したい能力や態度、教育内容・方法などについて決定していかなければならないことを意味する。教育課程の最終的な編成者である校長は、このことをしっかりと受け止め、リーダーシップを発揮しながらキャリア教育を推進していかなければならない。

そこで、まず、校長は教員に対してキャリア教育の教育的意義についての共通理解を図ることが大切になる。特に、中学校においては、このキャリア教育の教育的意義の共通理解こそが、進路指導との関連を明確にするために欠かせないこととなるのである。また、教育課程における位置付けについての考えを全教職員に示さなければならない。その実施に向けて、例えば「キャリア教育推進委員会」等の校内組織を整える必要がある。これらを機能させ、全教職員が互いに連携を密にして、キャリア教育の指導計画を作成し、円滑な実施に努めていかなければならない。

さらにキャリア教育では、家庭、地域、各種団体、さらに教育委員会など学校関係者、あるいは外部の人材による支援が欠かせない。また、学校の設置者からの、推進に必要な施設・設備など予算的な支援も必要となる。そのために、校長は、自校のキャリア教育の目標や教育内容、実践状況などについて積極的に情報発信し、広く協力を求めることが重要である。

次に、各学校においてキャリア教育を推進していくための手順例を示す。

学校におけるキャリア教育推進の手順例



2 校内推進体制の整備

キャリア教育は、学校の全教育活動を通して取り組んでこそ、そのねらいを達成することができる。中学校においては、常に複数の教職員が生徒の指導に当たるため、ややもすると教職員間の連携がうまく図れないことがある。そのため、各学校では校長の方針に基づき、キャリア教育のねらいが達成できるように、全教職員が協力していくことが大切であり、しっかりとした校内の推進体制を整える必要がある。校内推進体制の整備に当たっては、全教職員がキャリア教育の目標を共有しながら、適切に役割を分担していかなければならない。また、それは、校内のみでなく、保護者や地域の人々をも視野に入れておくことが求められている。

さらに、中学校では校内の推進体制において特に留意しなければならないことがある。それは、これまでの進路指導の体制とキャリア教育の体制との関連をどのように整理していくか、ということである。整理の仕方として主な考え方は二つある。一つは、これまで進学先や就職先の決定をめぐる指導を中心に担ってきた体制(「進路指導部(係)」などと呼ばれる組織の中心的な役割が、事実上、進学先や就職先の決定をめぐる指導に限定されてきた学校も少なくないだろう)とキャリア教育の体制をそれぞれ別につくり、共存させていくこと、もう一つは、進路指導とキャリア教育の体制を統合させ、キャリア教育にこれまでの進路指導を包含して推進する体制としていくこと、である。ほかにも考えられるだろうが、いずれにしても、各学校の実態に即した目標達成のための創意ある体制を整えていくことが大切である。

ここでは、生徒に対する指導体制、及び実践を支える運営体制の二つの観点からキャリア教育の校内推進体制の在り方について述べる。

(1) 生徒に対する指導体制

中学校において、各教職員はキャリア教育について様々な役割を担う。その中でも学級担任は、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び担任する学級の教科において、直接的な指導者としてキャリア教育にかかわる授業を進めていくこととなる。また、教科担任は、受け持った学級の生徒全員にキャリア教育を実践していく。そして、特別活動における学校行事や生徒会活動のように全校生徒規模に直接作用する場合もある。さらには、体験活動など学校外との連携のためのキャリア教育を専門的に担当するセクションとの協力も必要となる。

このように、複数の全教職員が連携してキャリア教育を行っていくには、前述した通り、キャリア教育を全校規模で推進できるような指導体制を、各校が工夫を凝らして整備していくことが必要となる。さらには、全教職員が自分の学級や学年だけでなく、ほかの学級や学年の実施状況を、十分把握しておくことが大切になる。その意味で、各学校は組織をあげてキャリア教育の実践を様々な形で、他の学級や学年の教職員と共有する必要がある。例えば、入学から卒業までの三年間を視野に入れたキャリア教育の様々な学習や活動の成果をファイリングした生徒たちのポートフォリオの一部を掲示する、体験活動の様子などの写真を掲示する、キャリア教育コーナーを設置し関連する作品や関連書籍を置くことなどが考えられる。また、これらのことを学級・学年だより、学校だよりなどで家庭・地域に広報したものを互いに共有する必要がある。

また、キャリア教育に関する授業研究、授業公開も必要である。さらに、全教職員で実践状況を紹介合い、互いに高め合うようなワークショップを行うことも学校全体のキャリア教育の推進状況を確かめ合うことができ、同時に教職員の共同性を高めることにもつながる。

最後に、なかなか困難なことではあるが、家庭、高等学校、事業所などとも連携・協力して、卒業後の生徒たちの追跡調査を計画的、継続的に実施したい。このことこそが自校のキャリア教育を長期

的視野からとらえた場合の評価にもつながるからである。卒業した生徒たちの進路先から情報を得たり、直接生徒たちにアンケートを送付し回答を得たりと、何らかの方法で収集し、キャリア教育の推進に役立てていきたいものである。

(2)実践を支える運営体制

教科担任が指導を行うことの多い中学校では、キャリア教育を断片的な推進にとどまらせないために、その運営体制をしっかりとさせる必要がある。そのため校長は、各学校の実態に応じて校内規程を整備し、教職員の実践を学校全体で支える仕組みを整える必要がある。その上で、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画の実施、評価、連絡・調整、実践上の課題解決や改善などを図るための関係教職員による組織づくりが必要となる。

ここでは、参考として『キャリア教育推進委員会』を中心とした運営体制の組織図を2例示す。なお、この組織は、各学校の生徒、家庭、地域の実態、さらに学校規模などによりその構成は異なってくる。



※実態により、組織の編成及び遂行内容は弾力的にし、実効性の高いものにする。
 ※各校の校務分掌内にキャリア教育主任を他の主任等に並んで配置することも有効な方策の一つであり、ここではそれを前提に例示した。

3 教職員研修

(1) 教職員研修のねらいや内容

研修のねらいや内容は、各学校がその実態に応じて適切に定めるべきものである。そのために研修を通して教職員は、学校において定めるキャリア教育の目標、育成したい能力や態度、キャリア教育の教育課程における位置付け、各教科等との関連、全体計画・年間指導計画・単元の指導計画の作成、評価などについての認識を深めておかなければならない。

(2) 教職員研修の実施形態

全教職員が同一の会場に集まって実施する研修も有効な方策ではあるが、教科単位、学年単位、課題別グループ単位などの少人数で実施するなどの工夫をしたい。そしてそれぞれの課題に応じて計画的、弾力的に研修を実施していくことが大切である。また、研修の方法も講義形式のほか、事例研究、ワークショップ、演習方式、授業研究など学校の実態や研修のねらいに応じて採用したい。

教職員研修の例

	研修のテーマ	ね ら い	
第1回	キャリア教育の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校におけるキャリア教育の意義を理解する。 ・キャリア教育の推進に不可欠な教職員全体の意識を高める。 	◎研修内容や留意点についても、各校において定めておくとよい。
第2回	キャリア教育の目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の生徒におけるキャリア発達上の課題、育成したい能力や態度を明らかにし、キャリア教育の目標を設定して、目指す生徒像を明確にする。 ・明らかにされた育成したい能力や態度と各教科等の関連を考え、全体計画、年間指導計画などを作成する。 	
第3回	キャリア教育の視点に立った授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の単元指導計画や一単位時間の指導計画を作成する。 ・授業研究により、指導力の向上を図る。 	
第4回	家庭や地域との効果的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域のキャリア教育に対する理解を促進する手立てや、学校の特性を生かした効果的な連携の進め方を話し合う。 	
※適時	キャリア・カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なカウンセリング能力、コミュニケーション能力を高める。 	

(3) 記録の保存や活用

研修の有効な推進には、過去の内容をいつでも検索できるようにしておくことが重要である。そのためにキャリア教育に関する全体計画、年間指導計画、実践記録、生徒たちが作るキャリア教育における成果物の作文などの作品、映像記録、参考文献などを一箇所に集めて整理・保存しておくことよい。